

## 農作物の生育状況（7月1日現在）

中南地域県民局地域農林水産部

### 1 水稻

- ・6月30日現在の生育は、草丈は、「つがるロマン」は平年並み、「まっしぐら」はやや長め。茎数は平年よりやや少なめ。葉数では生育はほぼ平年並みで、気象が平年並みに推移すると、幼穂形成期は「つがるロマン」、「まっしぐら」とも7月11日頃となる見込み。「青天の霹靂」は、前年に比べて、草丈、茎数、葉数ともほぼ並みであった。

### 2 果樹

#### (1) りんご

- ・弘前市独狐では平年と比べて開花日が4日程度早く、開花期間が平年より4日短い6日間であった。果実の肥大は、6月1日現在で平年比130%と優ったが、その後は気温が平年並み～低く推移したため鈍化し、7月1日は弘前市独狐で4.10cm(平年比104.8%)、平川市金屋で4.19cm(平年比106.9%)であった。仕上げ摘果、草刈等の作業が行われている。

#### (2) もも

- ・7月1日の「川中島白桃」の果実肥大は4.23cmと平年4.11cmを上回っている。病害虫では、一部で縮葉病が見られたが現在は目立たない状況となっている。

#### (3) ぶどう

- ・落花日は平年より7日早い6月20日であった。病害虫の発生は特にはない。

### 3 野菜

#### (1) トマト

- ・主力の5月上～中旬定植の収穫は、平年比4日早の6月16日頃から始まっている。
- ・生育は4月下旬より降水量が少なめでほ場が乾燥しているため、一部ほ場で葉先枯れや尻腐れ果の発生がみられ、鉄欠乏が平年より早く発生したものの、現在は回復しつつある。

#### (2) にんにく

- ・6月10日の調査では、地上部、地下部とも生育は平年を上回り、肥大は平年並～やや大きめである。
- ・6月に入り降雨が多かったことから、全般的にさび病、葉枯病、春腐病の発生が多めである。

### 4 花き

#### (1) トルコギキョウ

- ・越冬栽培(7月出荷)が収穫期となっており、草丈、花色は良好である。普通栽培～抑制栽培(8～10月出荷)の生育は順調で早生品種では出蕾期となっている。病害虫は、目立った被害は見られない。



「青天の霹靂」生育調査 2016. 6. 20 工藤氏 水田



ぶどう栽培講習会 2016. 6. 3